

顔の見える木材での快適空間づくり事業

事業実施主体

株式会社 ワイス・ワイス

実施体制・連携グループ

▼都市と森をつなぐ空間の創造 協議会

- ・店舗企画、店舗・場所の協力／スターバックスコーヒージャパン(株)
- ・ソフト企画、調達コーディネート、家具・什器の設計・管理、家具製造
／(株)ワイス・ワイス
- ・木材供給元／大阪府立森林組合 南河内支店
- ・木材供給元、製材／河内長野市立林業総合センター 木根館
- ・店内BGM 開発 森のライブ音／(株)JVCケンウッド・デザイン
- ・森のライブ音協力／河内長野市役所 環境経済部 農林課

事業内容(利用具体的な実施項拡大に向けた目)

- ①都市と森をつなぐ空間の創造 協議会の発足
スターバックスコーヒージャパンの「JIMOTOテーブルプログラム」が導入される全国横展開のサポートを主軸に始動。
- ②大阪市内に新規オープンするスターバックス／『SHINRIN-YOKU』をコンセプトに、来店者が大阪の森や自然に興味を持つ切っ掛けとなるような店舗の仕掛け(森の音等)・地域のつなぎ役としての地域材家具のデザイン設計製造を行う。
- ③JIMOTOテーブルプログラムの展開のサポート
実施計画された店舗のある地域への地域材の現地調査・課題抽出(無垢材家具の材料供給の品質や、納期・コスト管理)を解決し、コントロールする。各地の地域材家具のデザイン設計製造を行う。
- ④JIMOTOテーブルプログラムの広報展開のサポート
地域材の供給や、地域材を使った家具製造の過程で関わる地域事業者の背景(課題ややりがい、自然や歴史・風土など)を伝えるための、広報(情報収集や編集、ストーリーづくり、情報発信/WEB等)をする。
また、スターバックスの従業員とも、それら背景・ストーリーを共有し、啓蒙啓発をすることで、接客等の中で語り一般の方々に広く認知してもらう。

【テーマ】都市と森をつなぐ空間の創造

背景と目的

【背景】国産材、特にA材を暮らしの中で見る機会が無い。日本全国に存在する林業地より、行き場を失ってしまった木々(国産A材)を有効活用、高付加価値化したいと沢山の相談が弊社に舞い込んでいる。
【目的】地域材を使った家具・空間のブランド化によりA材の認知を広げ、啓蒙啓発を促進し、需要の喚起と価値の最大化を目指す。

対象とするA材丸太を原材料とする付加価値の高い木材製品

スターバックスコーヒージャパン(株)のエシカル・サステナブル調達の理念に沿って、地域の木材を店舗に取り入れ、地域とのつながりを大切にす/ JIMOTOテーブルプログラム。そのプログラムを共に進めてきたワイス・ワイスが、全国各地の地域材供給ネットワークや地域材を使った「森をつくる家具・空間」の開発・納入を行う。大阪市内に新規オープンするスターバックスでは、都心からほど近い河内長野市に森林・木材・事業者が多くあり、川上から川下まで一貫して家具の背景を伝えられる高付加価値な店舗とする。また、全国同じ状況にある近隣の森をテーマに家具を導入する店舗を横展開する。

写真・図等

地域材を使い『都市と森をつなぐ空間の創造』店舗 家具 開発

河内長野の森

河内長野の製材所

スターバックス店舗 参考イメージ



スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

①協議会発足

②梅田店 家具等 製作

③ 横展開

④ 広報展開サポート

報告書作成